

習よ
慣き

○お友達と仲よくあそびましよう
○部屋の中ではなるべく静かにあそびましよう

○朝の登園時間におくれないようにしまししよう
○お仕事の途中ではなるべくお手洗にゆかないようにしまししよう
年長組も小学校入学がちかくなるので学校生活への準備のため次第に規則にはめてゆくようにする。

二月の保育所

保育所には、進級とか修了とか云う事はない筈だと、さるお役人が仰言つた事が、全国の保母さん方の心に何か石を投じた様ですが小学校入学年令が四月一日に基準し、諸々の会計年令が四月一日を初めとしている等思うと、三月は一応、諸事業の一年の終りと云えます。小学校入学の幼児を、多数入所させている保育所は、矢張りその子を持つている家庭と同じ様に、様々な心の準備もし、共に祝う気持が自然の事と思います。

三月になつてからでは、もう何かと間に合わなく、日時はたつてしましますから、この月は、一人々々の進学期に注意をむけて、その社会生活の態度や、自分の身のまわりの仕末等についてメモ等しながら、個別指導に重点をおきたいと思ひます。

◇ ◇ ◇

鈴 木 と く

中組(四、五才児)は、年長組になる誇をもう二月頃から、はつきり意識させてもよいでしょう。たゞ、年長組になると云う事を、色々な禁止の場面や、抑圧の為に使う事のない様に注意したいものです。

この年令の組では、もうこの頃に、基本的習慣の殆どが、確立してよい筈です。その確立のしかたも、単に出来る、と云う事だけでなく、速度とか精巧さとか正しくとか、質的に、三才児より高くなつてゐる筈です。

社会生活をする上に必要な、礼儀や、作法や、規律等が、自然にそうするものだ、と云う風に身につきはじめていると思ひますし、又、そうなつていてほしいと思ひます。

どんなに、年長組を多数入所させている保育所でも、いく人かの中組や、年少組がある事と思います。その幼児達が、来るべき新年度から、保育所の生活の軸となることを考えましょう。

遊びの面でも、運動、製作、音楽、見方、き、方、話し方等どんな風にするか、どの程度の事が、どんな工合に出来るか、注意してメモしておきたいと思えます。この事は年長組になつて遊びを計画する時に、大切なものとなり、受持の保母が他の人になるなら、引きつぎの時には、最も大切な事の一つになります。一月に、参考として、保育計画で実施した事のまとめの用紙や個人記録の用紙の形式をかきましたが、あの様なものを資料として、自分の記入しよいものを作りあげて、たつた一つの事についてでもいいですが、個人の状態をまとめてみる習慣を保母さん自身が、身につけましょう。

こんな考え方で行くと、二月の保育の実際は、どの様になるのかと、一寸、とまどいの形になりますが、思いきつて自由に、と云うと、単元の設定も、何もなしに、幼児の興味の趣くところから、それを拾い上げて、発展継続させると云うやり方をとるか、或は、三月の中頃に、進学児と、保育継続の幼児との、お祝い兼、お別れを借しむ会の計画をたて、その目的へむかつての遊びの種々な面を構成して行くか、のいづれかと思えます。個々の様子を知るには自由に遊んでいる時の方が、保母にとつては記録しよいと思えますし、又、何を、どの程度に、と云う場合は何か一つのことをきめて一斉にあつめてやらした方がよいでしょう。手先の事とか、運動の

事とか、歌うこと等。

◇ ◇ ◇
年長組には、その他、これ迄描いた自分の絵の整理や、製作の整理、等のお仕事があります。其の都度に、家庭へ持ち帰らせてられる保育所は、こんなお仕事はないでしょうけれど、描いたもの、製作（主として紙細工、それも平面的なもの）等、とつておかれた所では、日付順にそれを整理して行く楽しみがあります。毎日、一寸の時間集つて、一カ月分位づつ、して行つても、一週間以上か、りましょう。これに、保母と幼児の共同による表紙をつけることも、楽しい仕事の丁つとしたいものです。一年間の、自分達の生活表現に、美しい表紙がついたら、なお一層うれしい事でしょう。その表紙を、全然保母がしてあげるか、自力でさせるか、又、保母の手も加えて綺麗にし上げるか、其処々々の、幼児の状態や、保育担当者各自の考え方にもよりますが、あくまで幼児の創造性の發露を願いとする所は、幼児自身に表紙の製作もまかせましょう。

先に云いました、思いきつて自由に、と云うやり方は、一人の保母が一組四、五十人も愛持つていられる所では、不可能な事と思われれます。二年保育で、三十人位迄でしたら、楽しいグループ展開が出来て、その出来上つたものを、お別れの会等に、そのまゝ、發表したり、利用したり出来ますが、自由な形がいい、からと云つて、夫が放任保育になりがちな事をくれぐれも御注意下さい。

豆まきがあり、立春の話があり、最初の週は、その事ですすぎます

が、寒があけても、東京地方等は、その後、度々、雪が降つたりして、遊びの予定や、その日の計画は、雪にさらわれてしまいました。部屋にこもり勝ちの冬の保育を、雪が外に誘い出してくれませんが、雪かきは、他の人の為に親切心を湧きた、せましよう。雪つり、雪だるま、雪玉ころがし、雪合戦等々、雪の少ない地方の雪降り、どんなに幼児のころをゆすぶることでしょう。その日も、その翌日も、設定した、その週の案がメチャクになつてしまつた事を悲しむ保母さんはいないと思います。

氷滑り、スキートの話、そしてそれにちなむ歌、リズム遊びなど、偶発事項は、計画されたものより面白く、スムーズに發展して行く事が多い様ですから、すかさず取り入れて、今迄に持つてゐる幼児の力を、ぐんと出させる様に、機智と、想像力とを保母自身が養つておきたいものです。

泥のついた下駄、足袋、靴下、又はぬれたそれらのものを、平気ではいていないで、自分から乾かす様にしましょう。

もしも、三月のお別れの会の予定が、音楽会形式のものに、劇や人形劇が加わるのでしたら、それを無理なくするには、二月の保育から毎日、何げなく遊びの中で、それがつみ重ねられて行くべきですし、園遊会の様な形式でしたら、売店のもの、遊びのものなど工夫して、二月からそれらの製作にかゝつた方が、保育も幼児も無理なく毎日の生活がたのしめて、最後の目的の日に、時のたつのも忘れてあそべると思ひます。

その他、一月にとり上げましたが、この月も引続いて注意したい事は、自分の名前、住所、父母の名前が、はつきり言える様になつたかどうか、注意しましょう。特別な時間をその為にとらなくても一組の人数の多い所では、必ず、待つ時間と云うのが時々あります。手洗いの服を待つ時間、おかすがくばられるのを待つ時間等、そうした時間を退屈させない様に、この発表練習をさせてもよろしいでしょう。棒よみ式に、口の中で、ズラ〜と云つてしまはない様に、殊に、住所と氏名は、はつきり言える様にしましょう。

それから、呼ばれたら、何時、何処にいても、はつきり返事が出来て、自分の所在を知らせる事が出来る様に、この事は、あまり気にかけていない方が多い様ですが、集団生活の上からも、自己を示す自信の上からも、それが、保育者との愛情のつながりの上からも必要な事の様に思われます。「呼べば応える」と云う動作の上から、感情のつながりや、感覚の呼応の事が、返事のやりとりからも出来る様に思われます。

意志表示で、何を、どうしたいのか、はつきり云う事、この事もなかくつけがたいことです。これは家庭で、目上の者の態度にもよると思ひますから、半分云つた事や、動作だけの事を大人が察して、希望通りにしてあげるのではなく、はつきり云わせてからしてあげる様にしましょう。学校へ上る途いくらもない日数で、なかくこうした事を急に望むのは無理な事なのですが、家庭との連絡をしっかりとつて、なるべくよくなるように努力しましょう。

◇ ◇ ◇

以上年長組の二月の生活を思いつくまゝにのべましたが、この保

育のあい間に、色々な、調査や、検査をするとすると、保母は、余程計画を密にしないと、すぐ三月の年度末を迎えて、あわてる様事になります。

小学校へ入学してしまふ幼児は、大体の様子が小学校に連絡されればいゝ様な、現在の学校との関連状態ですから、それでいゝと思えますが、来年度の保育の計画を立て、それが、よりよく展開されるためには、現在の年中組や、年少組の、一年間の歩み方と、現在の成長の状態が、大事な資料となるのですから発達状況を知るために、便利のいゝ様な、保育計画をたてる方がよいと思えます。先に云いました、年長組の計画に、中組も参加させるとしても、そのやり方で、観察の態度や、話し方、きゝ方、言葉の種類、音楽では、歌い得る可能な音程、リズム、等その他、保育案の各々の経験内容について、個別的観察の目をむけよ様な保育が出来ると思いません。それがそのまゝ、売店の売り物と飾られ、ステージの上で、無理を感じられずに、綺麗に歌うことや、動きのリズムとして発表も出来ましよう。が、その訓練なり経験の、期間、方法、種類は、保母のノートに記されてあるべきです。

季節の感覚としては、どの本にも、種々な事例がのつておりましようが、二月は雪、梅うぐいす、等と云つても、北の果と、南の果の保育所では、一カ月も季節感のずれがあります。地方々々の冬の感覚のものと、春を待ちはらんでいる植物の芽生えや、生長を、遊びの間にみのがす事が無い様につけましよう。

ものしまつ、共同のもの扱い方や、整頓のし方を、年中組の

終りにしつかりとさせておかないと、年長組になつてからでは、なか／＼そうするもの、と云う習慣がつきにくくなります。大体の生活技術を身につけたこの組の、これからの目的は、生活の美化とより楽しい文化的要素を経験する事に容易となる事を、私の経験からくれ／＼も申し上げます。自分でする力、自分で考えるくせ、何とか下手なりに工夫する努力の基礎は、この年令で基礎かためをしておいてあげた方がよい様です。

冬の重苦しい期間も、この月の末には、何か春への明るい希望がもてましようが、この間、生活指導に重点をおけばよいと云うので殺風景な保育所を現出してもよいのではありません。家庭に代るこの住居が、その辺の洋品店や、博らん会の様に、常に、賑々しく飾りたてられなくても、日常の生活に使う、玩具棚、入れ物、置場、その他の日用品が、心使いの細かさで、配色を考えたり、小布等を利用して、常に、美しいと感ずる環境の中に住まわせたいのです。

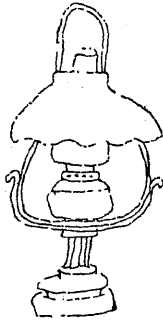
年令が小さい程、これはおろそかに考えるべきことではないと思えます。

も一つ、冬の保育で、保母の心づかひをして頂きたいものは、燧房のことです。これは、経営者や、父兄とも相談して、何とか、火鉢にかじりつき、或は炬燵にもぐりこむ。不健康な生活の習慣がつかない様に工夫したいと思えます。部屋がポーツと温かければ、火のまわりをうろつく幼児は少いですし、火による怪我も少くなります。

す。幼児の活動の工合、生活のプログラムの上での案配を考えて、必要度の濃淡を計画しましょう。寒い日の、部屋での時は、惜しみなく、ぬくぬくと、日光のおかけでしのげる時は、その様に。この事は、なか／＼若い保母さんには、気のまわりかねる事と思います。が、吾が国の独立途上の困難な経済生活の上でも、幼児には計画して健康的な、潑刺とした生活を設定してあげなければと思ひます。

寒さにかまけて、体重測定日を忘れない様に。

この月の終り頃には、九月以降六カ月の体重や身長を表を、各自の家庭に連絡して、身体的發育の様子を知つて頂く様にしたいと思ひます。



出来れば、保護者をひらいて、保育中に記録した事などを基に話し合いをする機会をつくりたいと思ひます。天候や、寒さで、家庭の方達は、なか／＼出席しないでしようが、人数が少ければ、それだけ、くわしく一人一人についてお話が出来るから、いゝのではないかと思ひます。母の会の出席率が、いゝのに越した事はありませんが、どの様に、保育所のあり方を理解してもらえたかは、出席数だけではいえないと思ひます。忙しいお母さん達ですから、こちらで聞く回数を多くしてあげなければ、一年中に、保育所の保母と親しく話す機会も、それだけ少くなるのではないかと思ひます。雪の夜等は、火を囲んで、しみ／＼と子供たちの事について、語り合いましたら、お母さんとの理解度も深まる事と思ひます。